

## 合格体験記 平野智一（30代 男性）

### 【はじめに】

「MMC で学習していなければ 2 次試験合格はなかっただろうな・・・」  
2 次試験合格の結果を得た今、率直にそう思っています。

初めて 2 次試験を受験した時には時間が足りず解答用紙は空欄ばかりでした。私は基本的な読み・書きする能力、つまり国語力が絶望的に弱かったのです。更に緊張すると手が震えてしまう体質もあり字が思うように書けないという弱みもありました。

ですが、そんな私でも緊張に耐え、制限時間内にそれなりの解答ができるようになったのは MMC での学習によるものが大きいと思います。

### 【プロフィール】

化学薬品の中小メーカー勤務。現在は人事・総務・経理を担当しています。

診断士に関連する資格は簿記 2 級くらいです。あとは仕事で株主総会や経営会議の運営に携わるため、会社法の知識が少々ある程度です。得意科目とまではいかないですが、事例 IV は他事例に比べて相対的には自信がありました。

小さい子供が 2 人おり、妻も働いているため、家事・育児・勉強の両立が大変でしたが、独学よりも週 1 回受験校に通って集中して学習するほうがメリハリがある生活を送ることができました。私の強みを挙げるとしたら家族の理解でしょうか。

### 【受験歴】

2015 年 1 次試験合格 2 次試験不合格（大手予備校通学）

2016 年 2 次試験不合格（MMC 通学）

2017～2018 年 診断士勉強から離れる

2019 年 1 次試験合格（独学） 2 次試験合格（MMC 通学）

2 次試験は 3 回目の受験で合格しました。

1 回目は、大手予備校で学習しましたが、与件の読み方（マーカーの引き方）ばかり気にとられ、「何を書いたらよいか分からない」という状態でした。演習や模試では空欄だらけで、2 次試験はなんて難しいんだろうと絶望したのを覚えています。

2 回目～3 回目は、MMC で学習しました。

MMC を選んだ理由は、合格率の高さに強みがあることはもちろんですが、「何を書いたらよいか明確のため、時間内に空欄なく書けるようになれそうだった」というのも私の中で大きかったです。

具体的には、①過去本試験の模範解答に一貫性があり、真似できそうだった。②カリキュラムがステップ毎に段階的になっており、少しずつ着実に成長できそうだった。③時間をかけて再答案を提出する再答案学習があり、書き方をとことん練習できそうだった。などです。

2 回目の受験では残念ながら不合格でしたが、MMCでの学習を継続すれば合格できると確信していたため、2年間のブランクはありましたが、3 回目の受験もMMCで通学し合格することができました。

#### 【学習方法】

私が工夫した学習方法は以下の通りです。

##### ①MMCの型に慣れる。

MMCでは、H13年から直近の過去本試験の模範解答が配布されます。その模範解答をコピーして、MCサークル別に切り取り並べました。最初はハサミで切ってノートに貼り付けていましたが非常に効率が悪いので、模範解答をPDFにしてコピーするようにしました。

MCサークルとは、設問で求められている題意に応じたレイヤーです。例えば事例Ⅰであれば、設問で理由や要因が問われている場合は「経営環境分析」、組織が問われている場合は「組織構造」、人事が求められている場合は「人的資源管理」などです。MCサークルの区別はMMCの講義で分かるようになりますので楽しみにして下さい。

この方法の期待効果としては、MCサークルの模範解答は、どの過去本試験でもだいたい同じような型で書かれているので、「設問を見た瞬間に解答の型が想起できる」という状態になります。また、演習や模試を受ける直前にこの模範解答集を確認するのも効果的でした。

##### ②演習や模試の添削コメントを学習時に毎回確認し、上達度を図る。

演習や模試の添削コメント付きの解答用紙を設問ごとに切り取り、事例別のノートに貼り付けていました。ノートの見開きを1枚分使って、1回目に提出した解答を上貼り、再答案学習で解答したものをその下に貼っていきます。学習時に自身の悪いクセを確認すると共に、1回目の添削コメントの指摘から改善できたかどうかの確認を行っていました。

MMCでは、再答案学習があります。演習や模試を1回やるだけで終わりにせず、再度同じ問題を時間をかけて解き、MMCの模範解答に近い解答になるまで自宅学習します。再答案は添削もしてもらえますので、ノートに並べていくと添削コメントや文章が改善していくのが視覚的に分かりモチベーションが上がります。

この方法の期待効果としては、「上達している感触を得ることができる」、「自身の悪いクセを修正することにも役立つ」などがありました。

### ③事例Ⅳオプションの計算問題集を毎日解く

MMCの事例Ⅳの講義によって、事例Ⅳの得点力は確実に大きくアップします。

講義では、経営分析をはじめ、事例Ⅳで合格点を獲得するために必要な解法が明確になります。とはいえ、事例Ⅳは計算科目の性格上、その学習効果を高めるためには毎日勉強するなど継続的なトレーニングが重要な科目です。

MMCではGW前後に事例Ⅳのオプション講義があります。私はその講義で配布される計算問題集を毎日2問ずつ取り組んでいました。問題集は2冊で各30問程ありますので、1か月2冊の計算です。1問あたりボリュームがあるので大変ですが、2回転目からは確実に力がついてきているのが分かります。

計算問題集を毎日解くことで、「MMCの事例Ⅳ講義での解法を理解し習得することへの相乗効果」が大きくありました。

#### 【失敗体験、成功体験】

不合格となった失敗の理由は以下の2つが大きいと思います。

①高得点を狙うあまり、因果関係で書くという鉄則が崩壊し、キーワード詰め込みで分かりづらい文章になっていた。

私は講義のステップが進むに連れて演習や模試の成績が上位だったため、試験本番のころには「もっと得点を高めるにはどうしたらよいか」という思考になっていたと思います。演習でも80分ギリギリまで高得点を取るために文章を練り、キーワードをできるだけ多く盛りこむやり方をした結果、MMCの鉄則である「題意に忠実に」「因果関係で書く」の2つが欠如し、非常に伝わりづらい解答になってしまいました。

②本試験の問題を見たとき今までとまったく違う問題に見え、いつも通りの解答ができなかった。

過去本試験の問題は十分に対策をしてきましたが、いざ本番の問題を見ると、「あれ、過去問と全然違う！今年は傾向が変わったのか・・・。」と当日、思い込んでしまい今までMMCの演習で学んできたMCサークルの型で書くということができておりませんでした。

以上の失敗体験を踏まえ、合格した今年は以下のように取り組みました。

①高得点は狙わず、60点を少し超えるくらいを安定的に取ることを目指しました。

具体的には、因果関係で書くことを最優先し、キーワードは1センテンスに1つに抑え、とにかく誰が読んでも分かりやすい文章にすることを心がけました。

また、解答をより良くする努力をやめ、時間削減のための努力をしました。

具体的には、70分で解いても同じ解答が書けるように、時間配分を見直しました。本番は

いつもの演習よりも時間がかかるため、終了10分前には終わるように時間削減しました。

②何回も解いた過去問は再度解くことはやめ、過去問は与件の精読とMMCの模範解答を眺めるだけにしました。過去問を繰り返し解くとその問題に引きずられ、本番との差を過敏に感じてしまうためです。

以上により、本試験では、MMCの4つの鉄則である、「題意に忠実に」、「因果関係で書く」、「切り口を明確に」、「キーワードで書く」をバランスよく解答用紙に置いてこれたと思います。

事例Ⅰでは、緊張のあまり手が震え、事例Ⅰが終わるまで最後まで震えが収まることなかったため、記述する時間が遅くなってしまいましたが、時間短縮トレーニングの成果もあり、なんとか空欄なく終えることができました。

#### 【さいごに】

2次試験は正解が発表されておらず、100%正しい勉強方法は見だしにくい試験です。そのため、これから学習を始めようとする受験生、あるいは何度もあきらめずに挑戦する受験生にとっては、正しい方法で合格に向けて努力できているのか？という不安があると思います。

MMCは、少人数制で講師は親身に相談に応じてくれます。上記のように、今の勉強方法で合格に近づいているのか？等不安になった場合、講師にその都度相談してみてください。必ず、前を向いてまた歩き出せるはずですよ。

私は、徳川先生からは常にポジティブなお言葉を頂きましたし、中居先生からは私の失敗経験を踏まえた改善のアドバイスを頂きました。伊藤先生からもご自身の経験を踏まえたアドバイスを何度も頂きました。

合格のために正しい方向に進んでいくための軌道修正があるという環境は、独学ではなかなか得ることができません。どうか皆様には、MMCをフル活用し、合格を勝ち取って頂きたいと思います。